

NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

ORMZ ニュース第 87号 (H30.10.20)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (メール info@ormz.or.jp) 文責：日高良雄



はじめに

10月、秋を感じさせる青空と白い雲、すがすがしい気分になりますね。

今日20日は職場の運動会、応援合戦や各課対抗リレー、玉入れなどなど、そしてお昼には皆でBBQ、と楽しい一日でした。

今回のORMZニュースは、会の活動として予算修正の臨時総会や動かなくなっていた車の売却のご報告、山元香代子先生からの現地活動報告、そして巡回診療に同行された医学生からの報告などです。どうぞご覧ください。

会の経過報告

10月8日(月)、臨時理事会を開催しました。提案議題は、ニュースで記載していました、巡回診療に用いる故障車両の修理費用が140万円と見積もられたことから、その支出と、今年度の予算を修正するための臨時総会開催についてでした。車は活動に欠かせないため異議なく承認されました。

10月10日(水)、理事会承認を受け、臨時総会を開催しました。定款第28条第3項の規定を用いて、メールによる総会とし、16日までに会員全員から承認の回答を得ることができ、議題を可決しました。

また4月からギアボックスの故障で動かなくなっていた別の車(2012年に購入した後、すぐに川につき、修理したものの度々故障していた車で平成29事業年に売却予定としていたものの売れなかった車)が、何とWEBに情報を出したところ10月18日に42,000クワチャで売れました。山元先生からは「いろいろなことのあった車でしたが、ごくろうさまの気持ちでいっぱいです」と報告がありました。

現地活動報告 (ザンビアより山元香代子先生)

みなさま いかがお過ごしでしょうか。日本はすっかり秋らしくなっていることと思います。

私は2日にザンビアに戻りました。台風24号の通過した後で、高速道路や国道が不通で、福岡までの高速バスを4時間待ち、福岡空港には何とか間に合って着きました。スーツケース2個の荷物も台風の影響でクロネコヤマトや佐川急便の宅急便は使えず、台風の来る前に自家用車で福岡空港まで運びました。

ルサカはいいお天気が続き、ジャカランダの花がとてもきれいです。ただ毎日断水があり、先週は33時間全く水がでず、2日続けて、お隣から井戸水を10クワチャで買いました。

(右の写真は水くみの様子です →)

ランクル1台はトヨタの修理工場に入っていて、巡回診療はレンタカーを借りて続けられていました。ギアボックスが壊れ



ジャカランダの花



て動かないランクルは、まだ買い手がみつかっておらず、宿舍の空き地にとまっています。（*この車が会の経過報告で記載したように売れました）

ルサカの町中のあちこちにスピードカメラが取り付けられ、わずか 0.5km のオーバーで罰金支払い（300 クワチャ）の呼び出しが来るようで、運転手はみんな戦々恐々としています。プロジェクトの運転手も制限速度 60 km の所 72 km で走っていて、300 クワチャ支払いました。

10 月 3 日はサンダラでの巡回診療。患者数は 69 名と少なく、マラリア陽性は 61 名中 3 名（4.9%）。マラリア患者の 3 名中 2 名はルアノ外の患者でした。上気道炎や下痢の患者が多くみられました。

10 月 10 日はルアノでの巡回診療。患者数は 82 名、マラリア陽性は 80 名中 0 名（0%）。この時期はマラリア患者が少なくなりますが、0 ということはなかったのやはり噴霧の効果でしょうか。上気道炎、下痢、結膜炎の患者が多くみられました。レンタカーを借りての活動となったので、8 月からルアノの診療は月 1 回となりました。そのため家族計画の患者が 36 名と多く、助産師のチブリカさんはたいへんでした。帰路、チサンバの舗装道路に入ったところで左後輪がパンクしましたが、大事に至らず安心しました。

今年は 6-7 月とても寒かったので、雨季が早く来るとか雨量が多いと聞き、噴霧を急がなくてはと考えました。そのため 10/8 にはルアノで村長さんやコミュニティボランティアに集まっていたき、噴霧の計画を立てました。ところが、郡保健局から殺虫剤がまだ届いていないとの返事をいただき、計画は延期となりました。今日 10/16 は 1 日中曇っていて、今にも雨が降りそうです。郡保健局の担当者について殺虫剤が届くのかの問合せの電話を何度してもスイッチが切られていて連絡がとれず、困っているところです。

10 月 9 日、日本大使館の大使からご連絡をいただき、ORMZ の活動内容などについて説明させていただきました。とても熱心に説明を聞いていただき、とてもうれしく思いました。また、ルアノにヘルスポストを建設するための資金を大使館の草の根無償援助に申請しているのですが、建設後郡保健局に建物を譲渡するなど、クリアしないといけない点についても、できる範囲で善処いただけるとのことです。少し安心しました。

ルアノ郡のリテタから巡回診療の要請があり、保健省の許可がようやく出たので、その協議のために来週はムクシに出かける予定です。10/8 から櫻井さんがお手伝いに日本から来て下さり、いろいろな事務手続き、町での買い物などをお願いできて、とても助かっています。車の修理が一刻も早く終了し、これ以上大きな車のトラブルが起きないことと、噴霧活動が終了するまで雨が降らないことを願うばかりです。

みんな元気でがんばって仕事をしています。これからもみなさまからのご支援をよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。



（*写真の長くて黒いのはエレファントバナナと呼ばれているもので、味はサツマイモとバナナの間のような感じだそうです。普通には売られていない果物です）

巡回診療同行報告（大阪大学医学生さんからの報告＊今回はお二人から）

今回私たちはルアノ地区での巡回診療に同行させていただきました。

まず、道中のチペンビヘルスセンターは、20床程の小さな施設で出産や感染症の治療を主に行っていました。衛生状態は悪くボロボロのベッドとシーツ、さらにはベッドの上で鶏を飼っているという状態でした。紙のカルテで患者の状態を記入しており、病歴や薬の投与歴、検査データが記録されていた。また机の上には薬が乱雑に置かれており日本との管理の違いも感じました。

ルアノの巡回診療を行う場所までは車で4時間ほどかかり、道も整備されていない山道でした。現地では主に診察補助、マラリア検査や服薬指導を体験させていただきました。私は主にマラリア検査の補助を体験しました。マラリアは現在乾期のため多くは見受けられませんでした。マラリア検査キットを使えば被験者の血液を採取して5分もすれば結果が分かりました。検査は訓練を受けたボランティアの方が行っていました。検査キットを使うと、作業が容易になりかつ迅速に行えることができるようになっており、現在マラリア蔓延国の僻地医療において欠かせないものであると感じました。

診察は血圧、体温、脈拍を測定することができ異常の有無を判定することが可能でした。また、検査値、服薬歴がカルテに残っており、このことは患者さんの主訴と照らし合わせて、病気を診断することを助けていました。現地での診療は現地語で行われていたため、ボランティアの方に通訳していただきながら診察を体験しました。

僻地では医療にアクセスできない村や集落に住む人々が様々な場所に点在しています。現地では中国などによる道路建設が活発であり、地方に住む人々の都市へのアクセスを可能にしていました。しかし、山道などに道路を建設することは難しく、実際ルアノ地区への道のりは予想以上に険しく、途上国における医療施設へのアクセスの問題は根深いものがあると身をもって感じました。その中でORMZの活動は僻地へ医療を届ける唯一の手段となっていると感じました。

最後に私たちの同行を許可して下さった山元先生、当日の同行をサポートして下さったスタッフの方々本当にありがとうございました。

大阪大学医学部医学科4年 広里優樹

NGO 団体 ORMZ (ザンビアの辺地医療を支援する会) の辺地医療に同行させていただいた。ORMZ はザンビアで辺地医療を行っている山元香代子先生の活動を支援するため、2012年に設立された。今回はザンビアの首都 Lusaka から片道車で約4時間、山道を走ったところにあるルアノ地区への巡回診療であった。ORMZ は毎週水曜日にザンビア内の3地区を順番に回って診療を行っている。診察所付近には小学校や井戸もあり、診察日には市場なども開かれ多くの人がそこに集まり一大行事のようになっていた。体重、血圧、体温などの測定、カルテの配布、診察、薬の処方、エイズ、マラリアの検査、妊産婦検診が行われていて、その一部を手伝わせていただいた。一連の流れとしては、まずは日本でいうところのカルテのようなノートを受け取り、体重や体温など基本的な検査を行い、そのノートに記入し、それをもって医師の待つ診察室へ行く。そこで診察を終えると、医師が症状から診断し、処方する薬をノートに記入する。そのノートを薬剤師の方に見せ、薬を受け取り、ノートを返却して終了となる。この流れだけ見ると基本的には日本とあまり変わらないように思えた。ただ、日本と違うところとしては、薬の種類が少ないという点と検査機器がないという点である。検査する機械がないので医師は患者の訴える症状だけから判断しなければならず、必ずしも正確な診断ができるとは言えない。また薬の種類も少なく適切な薬が手に入るかどうかは不明だ。ただ、そのためか、症状と処方する薬が1対1対応で書かれたマニュアル書のようなものもあり、だれでも簡単にできるようになっていた。

実際、僕たちもまだあまり医学的な知識がないにもかかわらず、そのマニュアルに従って少しだけお手伝いさせていただきました。

ルアノ地区だけに限れば、近くに病院などの医療施設はないものの2週間に一度巡回診療が来るので、定期的な検診や風邪や咳などの軽い病気であればあまり問題はないように感じた。しかしやはり緊急の時やマラリアなどの重い感染症になった時は対応が難しいのではないかと感じた。ただ、ザンビアは特に山間部や田舎の方は極めて人口密度が低く、ヘルスセンターや病院を作りにくい、作ったとしてもすべての人を必ずしもカバーできないという問題があるので当分の間はこのような巡回診療で補っていくしか方法がないように感じられた。また、この ORMZ の活動はすべてボランティア、無償で行われており、診察場所までの移動費や医療器具、薬費用など ORMZ が負担している。これを政府や企業が支援、援助してやるなどまだまだ改善点は多くあるように感じられた。

この度はわざわざ僕たちを受け入れてくださりありがとうございました。様々なことを教えていただき、大変勉強になりました。ザンビアの現地の方々も非常にやさしくフレンドリーに接して下さり、とても良い経験になりました。山元先生、ORMZ の皆様、ザンビアでお世話になった方々、またその他関係者の皆様には大変感謝しております。この場を借りて深くお礼申し上げます。

大阪大学医学部医学科 4 年 長野亘揮

賛助会費の納入と寄附受領証明書の送付について

- ・平成 30 事業年度（事業年度は 1 月から 12 月）の賛助会費（個人一口 5000 円、団体一口 10000 円、一口以上）及びご寄附（金額は問いません）のご協力をお願いします。
- ・当法人は認定 NPO 法人であり、ご寄附（賛助会費含む）いただいた際には、翌年の確定申告で税制上の優遇措置を受けるための寄附受領証明書（賛助会費も寄附金と同様税控除の対象）をお届けします。
- ・ご不明の点は日高（ info@ormz.or.jp ）までご連絡ください。

★郵ちょ銀行からの振替

口座記号 01720-9 口座番号 126351

加入者名 NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

★他の金融機関からの送金

郵ちょ銀行 店名：一七九、預金種目：当座、口座番号：0126351

加入者名 : NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

カナ名称（全角）：トクヒ）ザンビアノヘンチイリョウヲシエンズルカイ

*これからもご支援のほどどうぞよろしく申し上げます